

# 平成28年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

5: 十分 4: ほぼ十分  
3: どちらともいえない 2: やや不十分  
1: 不十分

\* 「評価項目」の( ) 数字は、本校の今年度重点目標の項目番号

領域	対象	H28 評価項目	H28 評価の観点	今年度の成果と課題	評価	具体的な改善策・向上策	
教育	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	コース制について、本校で実施している内容を具体化かつ発展させ、外部に正確に発信できているか。	コース制の内容・表現について検討、修正を行った。より現実 に即した内容になった。	5	来年度入学生などからアンケートなどを通じ、学校側が意図したとおりに伝わっているかを検証する。そのうえで、必要なら更に改善を行う。	
			生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラム・選択群の研究・検討を行い、特色ある教育課程づくりを行っているか。	新教育課程移行後、顕在化していた選択群の科目編成の見直しを行った。より生徒の希望に沿った科目編成になったが、今後、更なる改善が必要である。	4	生徒に対する進路希望調査結果を検討し、より生徒の進路希望に即した科目編成を志す。	
	学習指導	(1) 基礎基本の定着 (2) 個の興味関心 (3) に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導の工夫や教材作成に取り組んでいるか。	選挙権年齢の引き下げに伴い、主権者教育に積極的に取り組めた。また、それぞれの担当者が、教材の精選に取り組めた。	4	授業アンケートの項目の見直しを行い、各自が抱えている問題を明確にできれば、授業改善についてもより具体性を持たせることができると思われる。	
		授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業改善に努めているか。	係の不手際により、第1回授業アンケートの集約ができず、授業改善の資料とすることができなかった。また、第2回アンケートについても、実施が遅れ、先生方に迷惑をかけた。	2	授業アンケートの方式を再検討し、情報処理リテラシーのない者が係になっても、何とか成果を上げるシステム構築を検討したい。(授業者が、生徒の評価を受け止め、速やかに授業改善できる形	
	活動	進路指導	(1) 3年間を見通した計画的な進路指導 (2) 進路希望の実現と職業理解の促進	学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適正に活かしているか。	各学年で進路説明会や模擬試験を実施できた。一部ガイダンスの実施時期を変更し効果を得た。進路に関する情報提供も適宜行えた。	4	ここ数年をかけ、3年間を見通した指導が形になってきてはいるが、今後も継続して整備していきたい。
				働くことの意味と責任を自覚し、社会の一員として生きる力を育成するために、1学年からの意識付けや、ワーキングセミナー、各種適性検査等の実施ができたか。	各学年で進路説明会や模擬試験を実施できた。一部ガイダンスの実施時期を変更し効果を得た。進路に関する情報提供も適宜行えた。	4	進路希望の実現等については、生徒へのガイダンスだけでなく、職員対象のガイダンスも取り入れて、さらに指導を密にしていきたい
	生徒指導	(1) 基本的な生活習慣の確立 (2) 生徒相談体制の充実 (3) 生徒相談体制の充実		全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	校外巡視を年間を通して行っている。外部から苦情をいただくこともあるが、ルール・マナー向上の啓発になっている。	4	引き続き、問題行動を未然に防ぐよう、全職員で継続していきたい
				生徒の状況を把握し、関係者間の連絡を密にして適切な支援体制を整えているか。	外部支援員、カウンセラーと定期的に面談を行い、関係者の連絡を密にしながら生徒支援を進めている。	4	生徒状況の把握に努め、適切な支援につなげるとともに、定期的な面談も継続し生徒支援を進めていきたい
	生徒会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。各活動を安全に行っているか。	挨拶運動、生徒総会における運営改善など、生徒自身がそれぞれの改善に向けて主体的に取り組んだ。	4	後期生徒会執行部でも、より良い変化に向けて生徒会目標を設定、生徒会行事等に反映させるため取り組んでいる。これらの活動に対しサポートを行う。	
	学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実 (2) 情報提供	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	各行事終了時に、アンケートを実施して改善に努めている。生徒・保護者への学校評価アンケートや学校評議員会などを通して、教育活動の向上・改善を図っている。	4	引き続き学校評価アンケート等を活用して、広くさまざまな意見を聞きながら、教育活動の向上・改善を図りたい。
				本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的・迅速に公開・提供をしているか。	「梓川高校だより」を引き続き発行している。また、HPの見直し・更新なども積極的に取り組んでいる。	4	今後もさらにHPや「梓川高校だより」の充実を図りたい。また、マスメディアへの情報発信も積極的に行いたい。
		地域連携	(1) 地域の声を教育活動に生かす (2) 教育力の活用	様々な場面で地元との連携を図り、地域の声を教育活動に生かしているか。	地元の中学との連携をとっている。「出前授業」を行った。地域の各種行事にも積極的に参加した。	4	多くの地域の行事に参加して地域の方々との更なる連携を深めていけるようにしたい。また、「出前授業」等で地元の中学との連携も更に深めていきたい
			地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習意欲を引き出しているか。	「信州学」や各コースのさまざまな学習の場面で地域の方に講師を依頼し、授業等が展開できた。	4	今後も地域やOBの方々の力をお借りしながら、「信州学」や体験学習がさらによりよい学習になるよう、改善、継続していきたい。	
校内研修		(1) 授業・学習指導法の改善 (2) 生徒の理解		職員が積極的に取り組める、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	校内、校外向けの公開授業を実施した。研究授業も実施した。参加者の増加を一層図ることが課題である。	4	来年度も引き続き、実施していきたい。さらに、来校者(中学生・保護者等)ができるだけ参加しやすい日の開催を工夫、計画していきたい。
				多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	様々な場で、生徒についての情報共有を行うようにしている。カウンセラーの協力も得て生徒理解・生徒支援の効果を上げている。	4	内容の濃い研修会を持つことができた。さらに、継続していく必要がある。